

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1492800063
法人名	医療法人社団 三喜会
事業所名	グループホーム鶴巻
訪問調査日	平成21年2月27日
評価確定日	平成21年4月4日
評価機関名	福祉サービス第三者評価機関しょうなん 株式会社フィールズ

### 項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### 記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

作成日 平成 21年 3月 23日

## 【評価実施概要】

事業所番号	第1492800063号
法人名	医療法人社団 三喜会
事業所名	グループホーム鶴巻
所在地	秦野市鶴巻北2-14-2 (電話) 0463-78-2272

評価機関名	福祉サービス第三者評価機関しょうなん株式会社フィールズ		
所在地	藤沢市鵜沼橋1-2-4 クゲヌマファースト3F		
訪問調査日	平成21年2月27日	評価確定日	平成21年4月4日

【情報提供票より】(平成 21年 1月 31日事務所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 20年 3月 1日						
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18人				
職員数	23人	常勤	14人	非常勤	9人	常勤換算	18.3人

### (2) 建物概要

建物構造	(SRC)造り
	6階建ての 2,3階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	68,000 円	その他の経費(月額)	46,000 円	
敷金	240,000円			
保証金の有無 (入居一時金含む)	360,000円	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	300 円	昼食	500 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日当たり 1,200 円			

### (4) 利用者の概要 (1月31日 現在)

利用者人数	18 名	男性	8 名	女性	10 名
要介護1	5 名	要介護2	5 名		
要介護3	4 名	要介護4	4 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 85 歳	最低	76 歳	最高	97 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	鶴巻ホームケアクリニック
---------	--------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

小田急小田原線・鶴巻温泉駅下車徒歩7分の所に高齢者複合施設があり、この中の2階及び3階のフロアを当グループホームが使用しています。東南に面する所に大きな木製のデッキがあり、高台からの眺望がビル建築を忘れさせてくれます。1階にクリニック、訪問介護があり、4階に小規模多機能型居宅介護デイサービスセンターを併せ持つケアタウンあじさいの丘として、医療法人社団三喜会が時代に即応し地域ニーズに応える形で平成20年3月より運営しています。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回が初めての外部評価です。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者とそのほか複数の職員が自己評価の原案づくりに参加しています。この機会を利用して、全職員がホームを客観視し、互いに啓蒙し合えることを期待します。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議は一年をとおして、12月に1回、実施しています。その内容はホーム紹介、経過報告などとなっています。地域に密着し、ホームでの暮らし方やその透明性を図るなど、この会議の趣旨を活かして、2~3ヶ月に1度開催し、さらなる推進が図られることを期待します。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>早めの行事案内や利用者のメンタル面のサポートについて、その希望が家族より出されています。家族の前向きな意見と思われるので、コミュニケーションをさらに深めていただくことを期待します。その他、職員の明るい対応、家族に代わっての一生懸命の対応など高い評価を得ています。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>10月以降は、外出支援に積極的に取り組んでいます。また、施設全体で実施したあじさい祭りではバザーや健康診断、子供の鼓笛演奏など相互発信のいい形が展開されており、さらなる地域密着が期待されます。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「利用者およびその家族、地域社会、職員に対する良質の保健・医療、福祉社会を創造する」という施設の理念を掲げています。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	入口に施設の理念が掲示してあります。		業務カンファレンスや申し送りを通して全職員へのさらなる理念の充実を期待します。
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会(鶴巻第三自治会)に加入しています。地域の盆踊りに参加したり、子供の園児と遠足での合流など地域交流が図られています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は外部評価の意義を理解し、自己評価も含め振り返ることで改善のヒントを拾い出し、できることから業務に反映しています。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	12月に一度、実施しています。		域密着とホームの透明性を図る意味からも、2~3ヶ月に一度実施し、各委員から身近な意見をいただき、ホーム運営に活用されることが期待されます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者や事業アドバイザーの見学受け入れや対応など電話や訪問だけでなく、様々な形で協力体制をとっています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族だよりの「グループホーム鶴巻」を2ヶ月に一度、施設全体のたよりである「鶴巻ファミリー」を3ヶ月に一度発行しています。金銭管理については、毎月の請求書発行時に同時に送付しています。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時に報告し、同時に意見を聴きとり、運営に反映しています。又、気軽に意見が言えるような雰囲気づくりを心がけています。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者とリーダーの異動がありましたが、文書による連絡、口頭説明、行事(敬老会)に来ていただいた時に引き継ぎの挨拶をし、早い時期から安心してもらえるように努めています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修や業務カンファレンス時の勉強会を実施しています。		職員のレベルにあった研修を計画的に実施することが望まれます。1月は外部研修に参加しています。この場合報告研修などを通して、全職員が学ぶ機会となるよう水平展開を期待します。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者交流(秦野フェスティバル)や研修会に参加し、サービスの質向上に努めています。また、法人が経営する他の事業所との協力体制がとられています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>馴染みの家具や調度品や家族の写真などに囲まれることで安心していただき、馴染んでいただくまでスタッフが付き添い、またアセスメント内容を全職員が把握して対応しています。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>アイコンタクトで慣れ親しみを感してもらったり、本人にできること、好きなことを大切にしながらコミュニケーションを図っています。又、本人から教わる生活の知恵には、学ぶ姿勢を前面に出し、感謝の気持ちを伝えています。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>ご本人の思いや希望を、普段の会話や行動、言葉や表情の中から汲み取れるよう努めています。意思の疎通が困難な場合には、ご家族や周りの方たちから情報を取り入れるようにしています。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>日々の関わり合いの中での利用者の変化やつぶやきを、連絡ノートに書き留め、職員全員で共有することで、一人ひとりの具体的な介護計画の作成に活かしています。ご家族からいただく要望や意見を取り入れた、柔軟な介護計画の作成を図っています。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>胃ろうで入所された方が自力で食べられるようになったり、歩行できなかった方が歩行できるようになったりといった変化があった場合は、速やかにその現状に合わせた介護計画の見直しがされています。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院・受診は家族対応が基本ですが、突発的な事情等により家族での対応ができない場合には、スタッフが対応しています。入院された家族のもとに、お散歩がてらスタッフと一緒にお見舞いに行くなどといった、ご家族の状況や要望に向き合った柔軟な対応がなされています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者のほとんどの方が事業所内の鶴巻ホームクリニックの医師を主治医としていますが、入所前のかかりつけ医を利用されている方も4名ほどいます。他のかかりつけ医にも定期的に往診に来ていただき、事業所内の医師や職員との連携を密にしています。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期の対応については、ご本人の希望があれば、事業所内の訪問看護ステーションやホームクリニックと連携を取りながら対応していくことを、入所時にお伝えしています。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者に語りかける言葉はやさしくおだやかで、誘導などの際はさりげない言葉かけで対応しています。また、名前を呼ぶ際も、お一人おひとりの表情や振る舞いに心を配り、利用者の誇りや尊厳を守ることに努めています。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活歴を知り、趣味や得意とするものの把握に努め、土に親しんでこられた方にはプランターで野菜作りをしたり、ダンスの好きな方には一緒に踊ったりして、その人らしく過ごせるよう支援しています。食事の時間は決まっていますが、個人の起床時刻に合わせてなど、一人ひとりの状態や思いに配慮しながら柔軟に対応しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日の食材の買い物と一緒にいったり、急須にお茶を入れたり、個々のできることに応じて食事の準備に当たっています。市場から仕入れた新鮮な魚を舟盛りにして食卓を飾ることもあります。職員も利用者と同じテーブルを囲み、親しく会話を交わしながら、一緒に食事を楽しんでいます。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週に2回の入浴を基本としていますが、希望される方にはいつでも対応できるようにしています。月1回の「風呂の日」には、入浴剤を使用したり干した果物の皮を入れたりして、入浴が楽しいものになるよう工夫しています。入浴時の背中を流しながらの会話などを通して、利用者との信頼関係の構築につなげています。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	料理の得意な方に野菜の下ごしらえや味見をお願いするほか、車いすの方も手の届く範囲でのテーブル拭き、男性の方も洗濯物たたみといった役割を持って、一人ひとりの力を発揮しています。近隣の保育園の子どもたちの外出時に、近くの公園で合流して、一緒に歌を歌ったりして交流の場を持ち、利用者にとっての楽しい		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望によっては、車で15分くらいの距離にある大型スーパーに月に1、2度買い物に出かけたり、毎日の食材の買い物と一緒に近くのスーパーに出かけたりしています。小田原の梅林や弘法山までドライブしたり、近くの神社にお参りにいったり、市の文化会館に出かけたりして、積極的に外出支援を行っています。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関を出た所がすぐにエレベーターとなっているため、安全のためにご家族の了解を得て、エレベーターの解放は暗証番号によって行っています。利用者の希望に応じ、一人で外出される方にはその都度対応しています。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に消防署に来てもらい、災害対策訓練を実施するほか、施設内の他事業所と連携しての共同防災訓練を月に1度行っています。地域に対しては、自治会長にお願いして、消防車を呼んでの地域も含めた大きな防災訓練も計画中です。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況は毎日記録し、職員間で情報を共有しており、摂取量の少ない方には、ジュースや甘めの炭酸飲料など、好みのものに対応しています。また、食事形態はきざみやミキサーなど、一人ひとりの状態に応じて対応しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間にはゆったりとしたソファが置かれ、大きな窓からはカーテン越しのやわらかな日射しが入り、明るく開放的な空間となっています。廊下には、利用者が口ずさむと気持ちが落ち着くという好きな詩の一節や外出した際の写真等が展示してあり、心和ませる場となっています。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	日常ご本人が使いなれたタンスや鏡台、小引き出しといった馴染みの家具が配置され、また仏壇のほか家族やお孫さんの写真などが置かれて、その方らしい居室となっています。		

# 自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## 記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目( 1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目( 88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	医療法人社団三喜会 グループホーム鶴巻
(ユニット名)	グループホーム鶴巻(2階・3階共通)
所在地 (県・市町村名)	神奈川県秦野市鶴巻北2丁目14番地2号
記入者名 (管理者)	佐野 真一
記入日	平成21年2月4日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑  取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
<input type="checkbox"/>	地域密着型サービスとしての理念 1 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念をつくり掲示している。		来年度はGH鶴巻の介護方針についてスタッフと協議しながら、どのようなホームを目指していくのか具体的に決めていく。
<input type="checkbox"/>	理念の共有と日々の取り組み 2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々の活動を通じて実践して行く。		利用者に認められる(穏やかに日々過ごさせる)グループホーム作りをしよう!!と全員に話している。
<input type="checkbox"/>	家族や地域への理念の浸透 3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	施設便りを作成。家族や地域の方にお送りし、諸種の行事などにも参加して頂き、外出を通じて、地域の方々との交流を図っている。		
2. 地域との支えあい				
<input type="checkbox"/>	隣近所とのつきあい 4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	地元自治会や商店会、民生委員、老人会の方々との交流を図っている。外出時等に立ち話をしたり、野菜などを頂いたり、出来る限り、イベント等の時は声をかけ、参加して下さるよう努めている。		
<input type="checkbox"/>	地域とのつきあい 5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入している。各種お祭りに参加し、交流を図れるよう努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	GHの見学会を随時行い、認知症高齢者GHの介護について、説明を行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価を受けることで、質を更に高める為の指針となる。また、職員同士その指針を共有し行動することが質の向上につながると職員に伝えている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設の理念や取り組み、利用者や家族の状況、職員の教育、今後の当施設の方針、推進会議の委員からの意見、要望等をディスカッションし、よりオープンな施設の運営に役立っている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	担当者とは様々な機会に電話や直接お伺いしたり、当施設を訪問して頂いたりしている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者が研修に参加し、職員には伝達講習で職員に伝えている。 現在適応者はいない。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員による言葉の虐待防止についても、カンファレンスを通じて職員意識の向上に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入所前に家庭訪問したり、当施設に於いても十分説明、質問や疑問点を尋ね、理解、納得の上契約をしている。退所時にも説明を行い、返却金などの説明も十分行い文書を作成し渡している。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>管理者やリーダーが中心に利用者や家族とのコミュニケーションをとり、課題があったら常に家族・職員と話し合い、報告、連絡を密にしている。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>常に電話にて連絡し合い、また面会や外出、外泊時その他いつでも必要時、報告・連絡をしている。金銭管理は毎月1回、領収書も添付し郵送している。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族の来所時に利用者のご様子を報告することで、ご家族の意見や要望などを同時に聴き取りながら運営に反映している。運営推進会議でも、家族代表者より意見や要望を聴いている。</p>	<p>ご家族が施設や職員に対して、気を遣うことの無いような施設雰囲気作りを行なって行く。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月1回のカンファレンスや毎日のミニカンファレンスに於いて、職員の意見や提案をいつでも聞ける場を設けている。</p>	<p>管理者に、何でも相談や要望が出来るような雰囲気作りを行なって行く。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>余裕のある業務体制を組み、利用者や家族の関わりに対し、余裕かつ柔軟に対応出来るよう努めている。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>H20年10月15日付にて管理者他リーダー職員が交代し、利用者及び家族に対し多大な迷惑と心配をお掛けしている。そこで利用者や家族に対して出来るだけ早く安心していただけるよう努力をしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<b>職員を育てる取り組み</b> 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の1日研修に参加したり、県や外部の研修にも参加している。施設内に於いても、カンファレンスの一部を使って勉強会も行っている。	今まで以上に職員教育に力を入れ、質の高いケアが出来る人材育成をする。
20	<b>同業者との交流を通じた向上</b> 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者との交流や、研修会に参加し、サービスの質を高める努力をしている。	
21	<b>職員のストレス軽減に向けた取り組み</b> 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員間ストレスを軽減する為に、風通しの良い職場環境を作っている最中。</li> <li>・余裕を持った業務体系を敷き、お互いに平等の姿勢を貫いている。</li> </ul>	職員1人ひとりの人間性の成長や幸せな人生を歩む努力なくして、質の高いケアは望めないことを語っていききたい。
22	<b>向上心を持って働き続けるための取り組み</b> 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	人事評価を行い、職員の自己評価に対し、話し合いを行いながら、その人の利点を更に成長出来るようアドバイスしたり、努力や実績に応じて正当に評価をしている。	
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<b>初期に築く本人との信頼関係</b> 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・直接、本人や家族の家庭を訪問し、十分な情報を得る努力をしている。</li> <li>・ご利用の事前に当施設の見学をして頂き、他の利用者様の様子や職員との生活の仕方、その他質問を受けながら説明している。</li> </ul>	
24	<b>初期に築く家族との信頼関係</b> 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	担当ケアマネージャーからも話を聞いたり、来ホーム時や電話等でも先ずは全て傾聴した上で家族の希望を中心に、しかも当施設としても最大限に支援して行けるよう、双方共満足行くよう努力している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が今何に困っているか、何を必要としているかについて見極め、様々な選択肢を提示し、共に考え、他の事業所の紹介も行っている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	出来れば、体験入居も視野に入れて居りますが、本人の自宅での生活環境で使っていたり、見ていたものを出来る限り当施設の自室に持ち込んで頂き、馴染みのものが多いように努める。まずはスタッフがずっと付き添い、徐々に馴染めるように取り組んでいる。		本人のバックグラウンドをチェックしたり、担当ケアマネジャーより情報を得て現場のケアに生かしている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の出来ること、わかるころ、好きなことをまずは大切に、お互いにコミュニケーションをはかり、共に行動していくことで、徐々に生活に馴染んで頂いている。時々本人から知識、技術を学ぶことがある。		本人・家族と共に、自分らしい生活が出来るように一緒に過ごし、支え合う関係を作っていく。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用開始前から、利用者が穏やかに自分らしい生活が送れるように、家族・職員・主治医等が連携を持ち、利用者を支えて行くことを話し合い、利用者の生活、健康状態すべてを報告し、ホーム職員と家族と一緒に考えながら利用者を支えられるように努力している。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族に利用者のバックグラウンド(人生史)を記入して頂き、利用者が1日でも早くホームに馴染み、新しく温かい家族的な関係が築けるよう支援している。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人のバックグラウンドの中で日課や大切なもの、大切な人、特に逢いたい人など、本人の希望を尊重し、出来るだけ実現出来るよう努めている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者毎の性格や行動パターン、身体状況、認知度などを把握し、利用者同士の関係を見極め、座る座席なども配慮をし、孤立しないよう考慮している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	当施設の行事、イベント等の時に連絡し、参加して頂いたり、家族のO・Bとしての関係性を持っていきたい。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや暮らしの希望に添えるよう努め、パーソンセンタードケア(その人中心のケア)実現のために、その人の思い・気持ち・立場に立ったケアを行なうように努めている。		本人の思いや気持ち、立場に立ったケアの実現を目指したい。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	その人の生活歴を把握し、その人らしい生活が送れるように支援している。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者の心身の状態を毎日の健康チェックや看護師による観察等を通じて、1日の過ごし方を考慮している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の自己実現を優先にしたケアプランニングを行い、日常生活の中や、職員・家族から収集した情報を基にケアプランに反映している。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアプラン期間に応じて見直しをしている。また、状況の変化に対しては速やかにアセスメントし、本人・家族・関係部署との連携をとり、状況に即したケアプランを作成している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個別に記録に忠実に記入している。利用者の1日の状態や言動の背景を知り、職員間における利用者情報の共有とケアプランに反映させている。		日々の状況観察と記録の大切さを認識し、関わった事実は忠実に記録ことを徹底する。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族のその時々々の状況に応じた対応をしている。外出、外泊、当ホームへの宿泊(実例なし)など、普通の家庭と同じような生活がいつでもできるように心がけている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	本人の意向や必要性に応じて、ボランティアさんと協力しながら支援している。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の意向や必要性に応じて、以前担当していたケアマネや包括支援センター、契約しているクリニック及び訪問看護ステーション事業者と話し合いを行なう。(実例なし)		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	担当地域の包括支援センターとは運営推進委員会のメンバーでもあり、ケースがあれば協働していく。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な往診、緊急時の契約もかわして居り、常に利用者の健康状態、治療について報告・連絡・相談し、支援している。		重度化しても安心して暮らせる体制を継続していく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	・認知症に対する造詣が深い主治医との連携を保ち、家族とも話し合い相談、助言を常に受けることが出来ている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員を中心に主治医、訪看STと気軽に相談し利用者の健康管理、医療活用の支援ができています。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	出来る限り早期の退院に向けて職員が、病院の医師、看護師との情報交換や相談をし家族とも話し合いながら支援している。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	未だ事例は無いが、入所時に重度化指針を家族に書面で明記し重度化した場合や終末期も本人・家族・かかりつけ医・訪問看護ステーションと話し合い、方向性を共有し取り組んでいる。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	未だ事例は無いが、当事業所での出来る範囲を家族、かかりつけ医に示し、訪問看護ステーションと共にチームとして取り組み、利用者が重度化しても日々の生活が自分らしく暮らせるように支援していく。		今後共利用者の重度化、変化に合わせて家族と共に話し合い確認しながらケアプランニングし、本人、家族、医療、看護、介護のチームケアで、本人・家族の望むターミナルケアをしていきたい。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	事前にサマリーを送りTelでの連絡を行い、出来るだけ移住先のケア関係者に訪問してもらい情報交換を行う。移り住んでも以前と出来る限り同じような生活が出来るように努めていきたい。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>個別ケアを心掛け、一人ひとりのプライバシーを守り尊厳をもって接し、その人に合った言葉かけを行えるよう日々研鑽していく。記録については、個々の情報をきちっと守っている。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>本人の気持、思いが表出できるように働きかけたり、自分で決められるような声かけや選択肢を示していきたい。実践はまだ道半ばであり、職員一同研鑽に努めて行きたい。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>個別ケアを実践し一人ひとりのペースに合わせた対応をしている。生活は自由にしているが分からない方には、さりげなく気づかい支援している。しかしながら実践はまだ道半ばであり、職員一同研鑽に努めて行きたい。</p>	<p>全職員がパーソンセンタードケア(その人中心のケア)の実現の為に当り前の生活が当り前に送れるように支援する技量を持てるよう導いて行きたい。</p>
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>自立度の高い人は自分で決めて頂き、分からない方にはご家族と相談しながら決めている。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>本人が出来ること、分かることの情報から職員と共に買い物、好きな飲食、食事の下ごしらえ、おやつ作り、お茶をつぐ、食台拭き、食器洗い、その他色々行っている。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>本人の好きな飲みもの、食べものを好みに合せた支援をしている。料理の本、チラシなどを職員と一緒に見ながら食べるものを決めることもある。</p>	<p>お正月はお祝いの酒、おせち料理、雑煮餅・七草がゆなどを提供し大変よろこばれました。また月1回の魚屋さんによるおさしみの日を設け召し上がっていただいております、大変喜んでいただいております。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりがパターンが異なるのでその人に合わせた誘導の支援をしている。便秘になられる利用者が多いので、排便コントロールには充分注意している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回を基本に、本人の希望や都合に合わせた入浴を心掛けている。		時には入浴拒否する時もあり、本人のその日の体調、声かけのしかた、方法、お湯の種類、その他色々工夫し心身の健康を維持して行けるよう支援する。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や身心の状況に合わせた休息や睡眠の環境作りを支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	現在でも充分とは言えないが、個々の利用者に合せた趣味、娯楽、興味のある物、又はその人の能力に応じて、役割や楽しみを支援している。		本人の役割、楽しみを見だし生き甲斐のある生活が送れるように支援する。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人がお金の大切さや、持っていない不安感等を理解し、希望する方には少額ではあるが何時でも使えるよう支援している。希望しない方には、事務所職員がお小遣い管理をし、適時使えるよう支援している。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	施設の中だけでなく、利用者並びに家族の希望によっては、何時でも戸外に出られるよう支援している。又、ご家族との食事、美容院、旅行、温泉、外泊なども自由に行なっている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年間行事を利用し、遠足や初詣等の外出支援をしている。		スタッフと共に季節を感じられる行事に参加できるように計画をしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら可能な利用者は現在入居していない為、本人の様子により、スタッフが家族と電話をし合い、本人に受話器を渡してお話をして頂く。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	24時間365日いつでも気軽に来て頂けるような雰囲気づくりを行なっている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	右記の通りであり、更に言葉による拘束についてもお互いに注意していくことを勉強会等を開催し取り組んでいる。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	理解はしているが利用者の安全を考え、やむを得ず玄関の鍵はかけ、必要に応じ開けている。		本人の外出希望時は必ずスタッフが見守り一緒に出かけている。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	本人の認知度や心身の状況に応じて、昼夜を通じて所在確認を行っている。夜間は定時巡視し確認し記録している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	本人の認知度や心身の状況に応じて、危険を防ぐ工夫をしている。居室内の環境整備や椅子の工夫や異食のある方には手の届かぬ所に収納している、。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	利用者一人一人に合わせた支援を行なっている。服薬時の氏名と薬の確認と記録をしている。火災発生時の避難訓練方法行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急対応マニュアルを作成、ファイリングしており、何時でもすぐ見て対応出来る。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難、誘導ルートが掲示されている。消防署と直通の自動火災警報機及びスプリンクラー消防設備も設置している。また、施設内他事業所と連携協力をを行い共同にて防災訓練を実施している。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	個々の心身の状況や認知度により、起こりうる事態を予測した介護に努めている。家族にも起こりうるリスクに対して時前にも説明を行っている。その上での自分らしい生活が送れるように支援している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	利用者の心身の変化や異常に気づく感性を高めている。正常か異常かの気づく職員の感性をどのように高めて行くか、日々の業務の中で職員間の報・連・相も密に行っている。気付いた時は速やかに報告し、主治医や他の機関、家族にも連絡し情報を共有し対応している。		受診の必要時、家族が対応出来ない時はスタッフが施設長と連絡を取りあい受診同行している。
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬包紙(一包化)に氏名、朝・昼・夜・寝る前の標示がされて居り、本人が飲んだことまでスタッフが確認している。薬の作用、副作用を理解し誤薬や忘れることのないように努めている。		服薬準備時は常に処方箋も同封されて居り確認している。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便の有無は毎日チェックし、不明時は本人のトイレ利用時の見守り、音、臭いなどでもチェックし便秘3日目には処方されている便秘薬を使用する時もある。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後はスタッフが見守り・介助により清潔を保持している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食、1日2回のティータイム時は必ずチェックしている。水分摂取の特に少ない人には、好きな飲み物を量は少なく飲水の回数を増やしている。脱水の危険性がある場合は、飲水量を記録している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	・事前に家族と連絡ずみの上で、インフルエンザ予防接種は全員終了。 ・日頃の健康管理の中でいつも異なる心身状態であると気づいた場合は施設長へ報告し指示を受ける。		外出後の手洗い、うがい。調理の時に傷がある人は、ディスポのグローブを使用している。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	・食器、調理用具は洗剤にて洗浄し、高温乾燥機により消毒している。 ・食材も毎日購入し新鮮な食材に心掛けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関の中にはいつも草花を生け、飾りものを貼付しいつでも見て頂けるようにしている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のあるしつらえ、普通の家と同じような空間で安心して生活できるよう配慮している。。不快な音や光はなく当たり前の生活が当たり前で暮らせるよう支援している。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日当たりの良い所デイルームやサンデッキに腰かける椅子を多数用意して。食堂にそれぞれ1部ずつ新聞をおき、雑誌、写真、花、動き物などを飾りTV、VTRも見られるゆったり過ごせるよう工夫している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人の使い慣れた好みのものを使用し居心地の良い空間作りを支援している。ご家族の希望があれば、いつでも利用者の居室にお泊まり頂いてもOKとしている。		出来る限りなじみの家具や普段使い慣れたもので自宅での居室とほぼ同じようなしつらいに心がけている。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	各室に空調設備があり、本人の希望により調整している。また冬場の感染予防と湿度調整の為に加湿器を家族にお持ちいただくようお願いし、ほぼ全員お持ちいただいている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーとなっており、大きさも適度で小さすぎないことから、利用者の身体状況の維持に役立っている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人一人の能力に応じた環境を創出するために、居室の扉にご自身の馴染みのものを掲示したりし、混乱や不安が起きないように工夫をしている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	サンデッキには草花を植えたり、植えかえたりし、外の庭の草むしり、掃除などを利用者の能力に合わせて行っている。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、活き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- 1 . 利用者が温かい雰囲気、穏やかな日々を過ごせるホーム。
- 2 . 働く職員が誇りとやり甲斐・学び甲斐が持てるホーム。を目指していきます。